

さて、本年度も残すところあと1ヶ月半となり、年度末進行中です。当直日誌でございます。

既報のごとく、宇川教授は先週までアメリカでした。今は高松です。来月は Barcelona 行って京都行って台湾行ってインドネシアにも行くらしいです。もしかすると福島にもいらっしゃるかもしれません。お目にかかれることを祈っております。

さて、最近では国際線のフライト中もネット接続が可能な便が増えていて、我らが宇川教授に至ってはますます24時間接続中という意味ではネットゲ廃人の域に達しているのではないかと感じてしまいます。常に宇川教授の指令にさらされているシン・医局長のT野さんも「フライト中ぐらいいはゆっくりさせて欲しいです」と嘆いておられました。当然、筆者のもとへも、週末にも“○○のメルアドわからないんだけど、東大の同窓会名簿で調べてくれないか?”とのメール。“旭川医大の同窓会名簿なら持っているのですが…”と返信すると、“教授室の本棚にあるから!”との返信が Arizona から届いたりします。たまに福島にお見えになると今度は「レッ○ノートの外部出力の選択方法はおかしい!」とか、「インストール中にUSBケーブル抜いたら何が悪い!」とか、ソンの事を私にいわれてもどうするんだ?というような電話が教授室からかかってきます。

“宇川のサポセン”って本でも書こうかしらってくる状態ですが、こういうことを書いていると、また私の年老いた母が「とんだブラック医局なのではないか?」と心配して電話をかけてくるので止めてほしいものです。

こんな私の素敵な医局ライフに今週回っていた学生諸君は気がついたかと思います。あと、新しいノートPCを毎年2-3台買うのは構いませんが、私は別にレッツラーでもなければ、バ○オの里の住人でもないので、機種特異的な設定方法については各サポセンをご利用頂けないものではないでしょうか。私は9年前のデスクトップPCを大事に使っているのでもわかりかねます。モノは大切にしましょう。

そうそう、モノを大切にといえば、昨日の朝、出勤すると、テーブルに割れたお皿が一枚…。前日の当直をされた大きい方のE本先生が犯人?という噂が流れていましたが、実は60代男性教授の方が犯人だったようです。アレは接着剤で治しておけという意味なのか、捨てておけという意味なのか今一つ不明でした。

そんなちょっとお茶目な60代大学教授ですが、門下の人材育成はしっかりしていたようです。東北文化学園大学の古林教授、杏林大学の寺尾教授に続いて、私も大変お世話になっているH島先生も某大学の教授に内定されたと伺っております。

じゃあ我々は…?とお伺いしたところ。「天は自ら助くる者を助く、彼らは頑張ったのだ」だそうです。

翻訳すると「俺は知らないから自分でなんとかしろ」ということらしいです。

60代大学教授の相手をしている場合にはありませんでした。当直空けたら早速頑張りたいと思います。

それでは、次号は来月…っておもったら裏医局長のK林先生からの電話です…。「日曜日もよろしく!」

次号は明日になりました…(LOL)。